



姫路市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成24年3月 ■ 人口：532,249人 ■ 面積：534.35km²
■ 担当課：姫路市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



姫路は、古くから経済、政治など多方面で、常に重要な位置を占めた「大国 播磨の中心」としての役割を担ってきた。その恵まれた地理的歴史的な環境から、姫路城など多種多様な歴史文化遺産が残されている。これらを再発見、再認識し、生きた遺産として活用し、未来に引き継ぎ、新しい「ふるさと・ひめじ」の創造に寄与するための基本方針を示している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

大国播磨の中心、日本の宝・世界の宝、時代を駆ける、
伝承と伝説、魁

課題

- ・「保存活用重点区域」の設定と相互のネットワーク化
- ・市民、民間企業等、行政の密接な連携による構想の推進

保存活用方針

- ・適切な保存管理の推進
- ・新たな保護の仕組みづくり
- ・関連文化財群の活用

保存活用のための取り組み

文化財の適切な保存活用の推進

指定等文化財を確実に保存していくとともに、新たな核となる候補についての調査・研究を行っていく。建造物や史跡等の個別の構成資産については、適切な保存活用を進める。関連文化財についての包括的な保存活用のあり方について検討していく。



新たな歴史文化遺産保護の仕組みづくり

地域に残る伝承や周辺環境など、従来の文化財の範疇に含まれず、カバーできていないものも多くある。市民から一定の評価や支持を受けているものについて、他の事例を参考にしながら、新たな保護の仕組みづくりを検討する。



関連文化財群の活用

関連文化財群のストーリーが市民にとってわかりやすく、身近に感じられるよう、パンフレットや地図、サイン・説明板等の整備を進めるとともに、ARやCGなどのデジタル情報の開発と連携、質の高い体験プログラムの開発を進める。

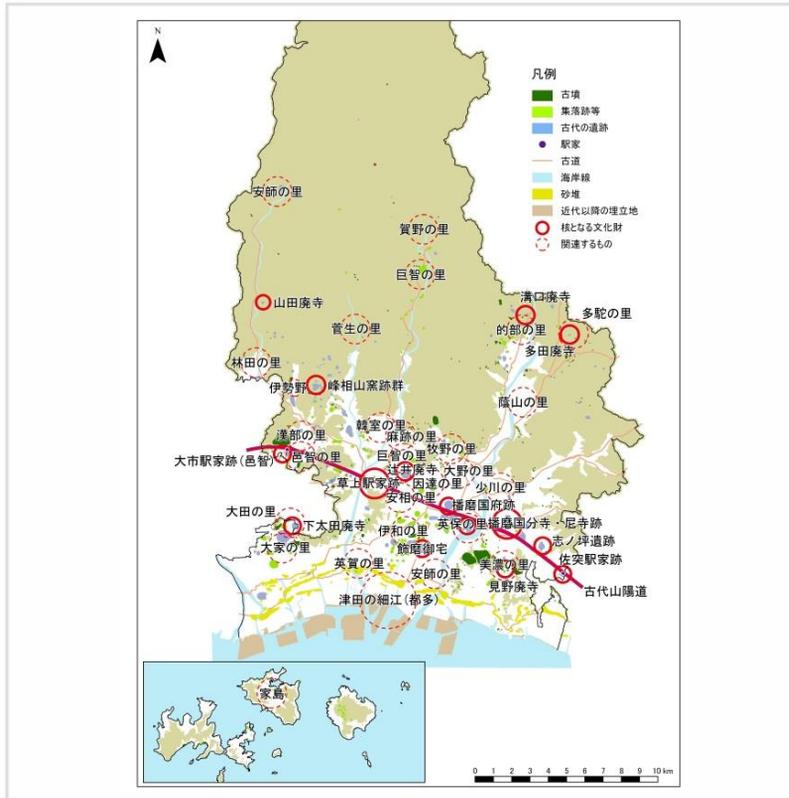


新たな関連文化財群の研究等

新たな関連文化財群について研究を進めるとともに、既存の行事等を再度位置づける。他都市の歴史文化遺産との交流や連携により、新たなストーリーの創出についても研究していく。



関連文化財群



姫路の歴史文化遺産を貫く大きなテーマを「大国 播磨の中心」とし、これらから導き出される関連文化財群を設定。根幹をなす大きなストーリーとして、播磨の古代を代表する歴史文化遺産の一つ風土記を取り上げた「神話と伝説」、近世城郭遺構の代表である姫路城のストーリー「近世の武家社会」の2つとした。これ以外に、円教寺をはじめとする仏教信仰をテーマとしたものなど4つのストーリーを例示した。

ストーリー

- ① 神話と伝説 ～播磨風土記の世界～
- ② 近世の武家社会 ～姫路城物語～
- ③ みほとけの世界
- ④ 中世赤松氏の城跡と関連文化財群
- ⑤ 天下の軍師黒田官兵衛
- ⑥ 新生国家づくり

策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化財のマスタープラン**
文化財は、地域のアイデンティティの核となるものであり、歴史的建造物や史跡等は地域のシンボルとして、まちの魅力を増大させ、活力を向上させるための生命線ともいえるものである。歴史文化基本構想は、この根幹を成すものとして位置づけられ、今後の「ふるさと・ひめじ」のまちづくりへ活かしていくための基本方針となっていく。



② **人づくり**
歴史文化遺産の活用のためには、主体となる担い手の育成が欠かせない。新たな担い手をつくるとともに既に担い手となった人たちにも、より高度な知識の習得や研鑽を可能としている。また、将来を担う子どもたちが歴史文化遺産に直接触れ、肌で感じる体験を促進することにより、郷土への理解を深め、愛着と誇りを醸成していくことが期待できる。



③ **地域づくり**
市民団体やNPO法人等、学識経験者、建築士、ヘリテージマネージャー等による活動と行政による支援をさらに促進するとともに、相互のネットワークにより、地域づくりが全市的に広がっている。また、これまで行われてきた観光や地域の特産品などの開発についても、歴史文化遺産の取り組みに再度位置づけ、新たなひめじブランドの開発が期待できる。

